

## 「ぼくの かあさん」

ぼくは かあさんを ずっと まえから しってる。  
じつは、うまれたときから ずっと。

かあさんは ぼくと くるまたちと いっしょに あそぶことが すきなんだ。  
ぼくも すき。ただ、あとで ちゃんと かたづけてくれるならね。  
おもちゃばこに きっちり とめておかないと いけないんだ。

「ブルン、ブルーン！」

ぼくの かあさんは いつも きれい。  
たまに、くちべにを つけてる。  
そうしたら、ぼくも すこし つけたくなっちゃうの。  
それに、かあさんの ドレスを、もっと かわいく しようと しちゃうとき  
も ある。  
くちべには いいけど、これは だめだって。

かあさんと ぼくは、いつも おかいものを いっしょに するの。  
「おこめに おやさい、くだものに…なにか わすれていないかしら？」  
ぼくは ものを はこぶのが とっても じょうずだ。  
かたづけるのは もっと じょうず。  
ポテトチップス ひとふくろ なんて すぐに なくなっちゃうよ！

てんきが いいときには、ふたりで ブランコに のるんだ。  
どっちが たかく こげるかな？  
もちろん ぼくは かあさんを てつだってあげる。そうしなきゃ ぜったい  
ぼくには かてないからね…

「もっと たかく！」

ぼくは やまを のぼるのが だいすき。  
くもの うえ たかくまで まっしぐらに のぼって  
てっぺんに ついたら かあさんは ちゅって してくれる。

ほんとうは、いつも ぼくが いちばん えらいのさ。

「パッカパッカ パッカパッカ！  
いけ かあさん はしれ かあさん！」

ぼくは かくれんぼが じょうず。  
だれだって、かあさんだって、ぼくを みつけられないよ。  
そして…ぱっと でてきて、  
「ばあっ！」  
ぼくが さけぶと、かあさんは びっくりぎょうてん！  
おかしくて おおわらいしちゃう。

ぼくは うえきに みずを やるのが すき。  
ふしぎな ことに、ぼくが みずやりを すると  
いつも あめが ふってくるんだ。

かあさんは めったに ぼくを おこらない。  
でも、おこるときは ほんっとうに おこるの！  
それから、どうして おこってるのか せつめい するんだけど…  
これが うんと じかんが かかるんだ。

ぼくは すごく そらが とびたいの。  
かあさんは ほんとうに やりたいことなら なんだって できるって いう  
んだ。  
これは ほんとう だよ。ほら、もう こんなに じょうずに とべるしね。  
でも かあさんは なかなか ぼくを はなせない みたい。

よる ねむる じかんに なると、かあさんは ぼくの ズボンの ほしたち  
を ふりはらうの。

ぼくは かあさんを ぎゅっと だきしめて いうんだ。

「おやすみなさい、おほしさま。またあした！」